京都帝國大學新聞　第三百四十六号　(一)
昭和十五年五月五日　火曜日　京都帝國大學新聞社

繰り上げに急歩調
早くも就職試験迫る

南方研究進む
工學部にも研究會生る

新しき學問
南方工學研究會生る

學振前期補助
本年度の分は二十件

日伊學術委員會
四月二十七日生る

本學〝學史〟編纂
遉々として進まず

南方文化研究會發足す
二日・記念講演會開催

海軍軍事講演
六日から二日間

貧鑛處理に成功
原田助教授らの業績

身體檢査日割きまる
國民体力法檢査と同時施行

教授・助教授ら
定員を増加

天長節
拜賀式

生學の下駄戰

「書物と銃」の生活
彼等の神秘的英雄主義は歴史を貫く民族の血である

黒田正利

アリタイ

待望裡に
二萬冊を突破
竣工いそぐ新圖書館

遺傳學談話會

學位授與

脚下照顧

岩波書店 新刊
手形交換法論　西原寛一著
ルードルフ・ゾーム フランク法とローマ法　久保正幡譯
定本萬葉集 二　佐佐木信綱編
或阿呆の一生　芥川龍之介著
支那・支那人　鳥山喜一著
チベット　多田等觀著
草刈籠　木村素衛著
數理哲學序説　平野智治譯
能面　金剛巌監修
世界文庫　樺太島紀行(上)　プロメーテオ　ドイツ論(一)
弘文堂

帝國大學の本質
―研究精神について―
荒木俊馬

帝國大學が我が國に於ける最高學府である事は改めて論ずる迄もない。そこで社會一般の多くの人は、帝國大學と言へば、學問の蘊奥を窮め之を授ける所であるから三年乃至四年の修學の後には一人前の立派な最高知識の所有者が出來上るものと考へたがる。知識なのになると學士と言ふ稱號の所有者は少くとも其の專門に關する限りに於ては何でも知つて居なければならぬと信じ込んで居る向もあるやうである

ある植物學の卒業生が田舍に行つた時のこと、色々な草の名前を尋ねられたのに大分知らぬのがあつて、小學校の先生で少しく其の方面に興味を持つた素人植物採集家にも及ばなかつた、そこで「いや、私は分類學の專攻ではなく植物生理が專門です」とか「植物生態學を研究したのです」とか辯解しては見たが一向に理由が立たずあれは偽理學士かも知れないとの判決を下されたと言ふ話がある。尤も此の話は事實としても昔の話であらうし、或は誰かが作つた冗談かも知れないが、兎に角、帝國大學の卒業生に對する社會一般の、少くとも期待を示す一寓話と考へる事は出來やう。

併しながら、つら〳〵考へるに帝國大學とは決して最高の知識を授ける所ではないのである。男子が一人前の教育を終るには、國民學校に入學以來中學校、高等學校と進み、初歩の知識から段々と教へ込まれて大學を卒業する迄、通算十七年の歳月を要する。斯く考へて來ると誰でも、大學は最高學府であるから、學生これ以上の知識を授ける所は外に無く、從つて學問も亦これ以上には無いと考へたがるのも無理からぬかも知れぬ。けれどもそれは素人考へで、學問は決してそんなものでない事は在學の學生諸君が既に良く知つて居られる事であらうが、それでもなほ帝國大學の講義なるものに關して多少明瞭な概念を缺いた人も偶には無いではない。そこで私に帝國大學の教育が如何なる性格のものであるかに就いて若干拙論を試みたいと思ふ。

學校で教はつた知識を、卒業後その儘、何處かで受賣りするとかまたは適當な範圍に應用して自分の生計を立てる爲めの具に供するといふのであらば問題は別である例へば「所謂」中學校の教師や高等專門學校の教授となる――つまり、大學で聽いた講義の知識を基礎とし、それを若干の參考書などで補つても、兎に角教師は立派に勤まる世の中である。斯くの如き目的の爲めならば、一通りの知識に時間の許す限り萬遍に授けて置かねばなるまい。而して中等教員養成所としての高等師範や文理大學の如きは此の範疇に屬するといへやう。また一通りの、例へば工業技術に關する知識を修得して、工場其の他の生産機關に就職し、然る可き機械を運轉して、夫々の職務を遂行して行く事だけが能であるならば、帝國大學も亦高等工業と言つたやうな專門學校の程度の高い存在に過ぎず、所謂「學士」なるレッテルに相當して恥をかゝぬだけの知識を備へて置けばよいかも知れぬ。

然し、帝國大學の使命は決して斯くの如き小さな所には無いやうに思ふ。勿論、大學を出て何も知らぬでは申譯無き事であり或る程度の基礎知識は必要不可缺であるが、何も所にも萬遍に知つた物識りを作るのが帝國大學の理想ではないのである。帝國大學は、文、法、經、理、農、工、醫の各方面に於て、皇國文化の推進者且つ指導者を養成する所であると信ずる。されば現在の最高知識の一通りを修得せしめるのは第二段で、重點はもつと根本的な點に存ると言はねばならぬ。

實際、自然科學を例にとれば、今日の大學卒業者が學んだ知識は四、五年は愚か、明日は最早や古くなつて仕舞ふと言つても過言ではない位、急激な進歩をなしつゝある。況んや十年一昔も前の知識に於てをやである。斯く考へ來れば帝國大學における教育殊に講義が如何なる性格を帶びねばならぬかは自明の事であらう。

即ち、大學において教官と學生とが相協力し兩者一體となつて醸し出さる可き眞の教育は知識には非ずして研究精神に重點を置かねばならぬ。從つて講義の如きにおいても、緒論に始まつて結論に終るといつたやうな教科書式の内容である必要は毫も無く、夫々の專門科學が如何なる本質のものであるか、更に廣く學問とはそも〳〵何であるか、その研究方法の本質的性格が奈邊に存するか、而して研究者乃至は技術者の各專門學徒に對する態度を如何に決す可きか等を充分に體得せしむることに目的を置かねばならぬ。一言に要約すれば或は用語上多少の批難があるかも知れないが、研究精神の完成が帝國大學における教育の根本でなければならぬ。

これは何も自然科學系統の學問に限つた事ではない――或は論じて言ふ人もあるかも知れないが「以上のやうな議論は學生の少い理學部や文學部では出來やうが、法科や經濟や工學部等では到底出來ない相談であるのみならず、實際其の必要も無いのだ」と。然し、若し法學部が高等文官試驗の準備校であるとか、また工學部が技術員の養成所なりと批評するものがあつたとすれば、此れ等關係諸學部の教官諸君は目の色を變へて憤慨するに決まつて居る。

之が學部の如何を問はず、帝國大學は帝國大學たる所以のある事に對する千萬言の議論よりも有力な證據ではないか。即ち、帝國大學なるものが學部の如何を問はず我國文化の最高推進機關であり、而も茲で教育される學生が各方面の指導研究者となる可きため、その教育方針が前述の如くある可き事は論を俟たぬ所である。法科や經濟にしても理學部その他の自然科學系統の學科と根本精神に於て決して異るわけのものではない。例へば法學部出身にして官公吏になる人は隨分多いが、これ等の人々にして帝國大學出身者本來の使命が存する所の研究精神を忘却し去つたならば、それこそ最惡の墮落といはねばならぬ。政治や外交や經濟關係は勿論自然科學ではなく且つ其の研究對象は時々刻々に變化して行くのであるから、若しこれに即應して爲す可き科學的研究を少しでも怠るやうなことがあるならば、其の人が「だから官僚は一書記官と言はれても仕方がないではないか」「だから官僚は職なる事務官に過ぎないではないか」と批難されても仕方が無いではないか。成程、官僚はみな「書記官」や「事務官」なる名稱になつてゐる。けれども、官僚の悉くが事實その名稱に文字通りにアンパッセンするならば帝國百年の大計は誰が建てるであらうか。我國の前途も心細くならざるを得ない。されば日本の政治を運轉推進する官吏の如きは人一倍艱難努力して眞の意味の綜合研究を怠つてはならない筈。

まだ大東亞戰爭にならぬ前、私は南京に遊んだ事があつた。或る晩、佐官級の若い元氣な將校二、三人を交へて痛飲した事があるが、其の席上、話は偶々日本の前途と言つた事になり、それから又、官僚や外交官の批評に及んだ。軍人の一人が「日本の官僚や外交官ぐらゐ不勉強なものは無い。例へば支那にやつて來てゐる外交官でも、興亞院の役人でも、支那の事を研究する事は愚か、研究しやうと言ふ熱意すらもないのだ」と攻撃したのに始まつて「一体、日本の役人は何か專門的な知識があるのか。何々課長とか何々局長と言つた肩書を取り去つたら何一つ能力は無いではないか」とか「いや、法律の條文を暗記して地位によつて權力をエンジョイしてゐるだけで、頭の中は空つぽだよ」とか、散々に非難攻撃の砲火を酒の盃と共に擧げるのであつたが、私は少々官吏諸君に同情を禁ずる能はず「僕は諸君の意見には斷乎として反對する」と、「官吏道が如何に難しいかを知らぬから、そんな暴論を吐くが、それは以ての外の認識不足で、官吏は軍人よりも遙かに賢明だ」と抗議したところ「何だ、今一度言つて見よ」と殺氣立つてゐたので「いや、官吏諸君は誰にも出來ぬ一番難しい專門學をマスターしてゐる。それはネー遊泳學――と言ふ學問だ」と説明した。所がそれが何更聽かつたと見えて、私は忽ち包圍攻撃に散々酒を勸められて終に足腰立たぬ迄に參つて仕舞つた。

近頃は時局の影響で官僚界にも大分研究的氣運が旺んになつた事は慶賀の至りであるが、大日本將來の國運を荷擔するに最も重要な地位に在る官吏諸君は今後益々科學的研究精神を忘れてはならぬ。つまり空虚な理念や觀念や、死んだ法文暗記だけで、行政事務のテクニクに堪能なだけではなく、國家の内外情勢、經濟事情、思想動向等全般に亘る現實面の精緻な科學的調査と、その結果の因果歸納的綜合研究による確固科學的企畫とを基調として、確乎として誤らぬ行政を遂行せねばならぬ。行政方面だけではない。經濟、產業、文化、科學、技術、あらゆる方面皆然りである。而もその指導は帝國大學の出身者が當らねばならぬのであるから、在學の學生諸君は如何なる學部たるを問はず、大日本帝國將來の運命を擔つて立つ氣魄を持せねばならぬ。帝國大學は職業教育の機關ではない。されば卒業後の生活の安定や立身出世などは毫末も念頭に置くべきではない。國家社會の如何なる方面に進出しやうとも忘れてならぬのは帝國大學で修得した研究精神である（二六〇二・四・二九）

農業生産力擴充と資金の問題
＝指導と金融の有機的結合＝
桑原正信

戰時における農村資金の流通は飛躍的に信用組合に吸集せしめられてゐるのであるが、その流通の相貌は預金の增加貸附の減少といふことによつて端的に表現することが出來る。けれどもこのやうな資金配備が、農業生産力擴充に對して遺憾なきや否については幾多批判の餘地が存するのであるが、いまその若干について觸れることゝしたい。

先づ第一に經營能力と資金との結びつきについて考へねばならぬ。農業經營の生產力は、若し經營能力（わが國にあつては通常家族勞働能力と結びついて）を與へられたものとするならば、かゝる能力に正しく相應する生產手段をもつて裝備せられるときに最も高く發揮せられるものであることは申すまでもない。從つてかゝる目的に副はんがためにはそれに要する資金も亦この線に沿つて配備せられねばならぬのであり、かくてわれ〳〵が當面してゐる農業生產力擴充の途も亦終局においてこの基本方式を追及する以外にはあり得ないことを知るのである。

ところで現實の事態をみるに、農村資金の代表的供給機關である信用組合においては一定の信用評定機關によつて組合員の信用度が評定され、各個の貸付最高限度が決定されるが、その評定の根據となすものは主として動產、不動產の如き彼が現に所有するものについてである。しかも一度この決定がなされるならば組合當局はこれを唯一の準據とし組合經營の安全を第一目標としてその任に當るのが一般である。從つて若し經營能力あるものが自己に許されたる限度以上に資金を必要としやうとも最早組合より融資をうけることは至難であり、從つて彼はそれを全然斷念するか或は組合金利に比すれば遙かに高率である個人又は賴母子講の如きに依存せらるを得ないことゝなる。かゝる事情が生產力擴充をはばむことは說明を要しないであらう。

私は最近京都府下某村において開知した一例を示したい。そこは反當價々四百圓程度の費用をもつて水田干拓が可能であり、しかも淡水且つ土性の豐沃なことから開田早々反當肥料をもつて反當約二石五斗程の收穫は確實とされてゐる地域である。こゝに昨年同村内の一農事實行組合が主体となつて施工したのであるが、工費七千圓のうち法人加入の故をもつて信用組合より貸付が許されたものはその限度三千圓のみであり、不足分中三千圓は實行組合長が個人の資格をもつて信用組合より限度まで借受け、なほも不足する一千圓は止むなく篤志者をもつて個人より借受け漸くにして工費を調達したといふのである。事は國家の最高要求の一である食糧增産に關り、國家はこれに對し四割の助成をなしつゝある事業であり、しかも累年の經驗によつて危險率の極めて低い地域であることは同一村に居住する信用組合幹部の知悉する處であり、更に加へて事業主体は數名の個人以上の實行組合であるといふ點を考へたるところ、かゝる條件を具備してゐるこの例においてすら信用限度が障碍として嚴守されること凡そかくの如くであるとすれば、他は推して知るべしであらう。

即ちこのことは舊き組合經營原則と新しき生產力擴充の論理との矛盾相剋に他ならぬのであるが、國家的要請に應じ後者を貫徹せしめんとするならば、新しくこゝに信用とは何か、信用の根據如何が反省されねばならぬことゝなるであらう。即ち單に所有するものをもつて信用の根據と認定した從來の評定方法に對し更に現に忠實な農民として經營を行ひつゝあるその經營能力、或は當該農家の生產力こそかゝる根據としてとりあげられねばならぬといふことを高調したいものである。

第二に反省せねばならぬ點は農業指導と資金の結びつきについてである。農々農民の資金需要の減退は購入すべき肥料その他經營用財の乏しいことに基くのであつて假に無利子の資金が供給されやうともそれを生產的に利用すべき途はないであらうと說かれてをり、われ〳〵も亦ある意味においてたしかにこのことを肯定せねばならぬのではある。けれどもこゝに銘記すべきことは、わが國の如き複雜なる風土的條件のもとに行はれる農業經營方式の多樣性と、小農經濟の複雜なる性格とを顧慮する限り、農業における資本の導入は決して資本主義的經營における如く大規模且つ劃一的に進められるものではなく、寧ろ小規模且つ多樣性をもつて實現せしめられるといふことである。一口に資本の導入、資本構成の變貌といふ、しかし具体的には地域、經營方式を異にするに從つて導入される資本の姿も異つてくるのである。ある經營には機械が、他の經營には家畜が、また他の經營では土地改良がといふごとくに。かくて今日のごとく資本導入の新しい途が極度に狹ばめられた時にこそいよいよ技術的、經營的指導の重要性が前面に押出されねばならぬのである。

即ち、たしかに從來の自由經濟時代においては如何なる資本を幾何導入すべきかの決定は殆ど農民の自由的裁量に委ねられ指導機關（主として農會）はたゞ助言者的立場にあつたと云つて差支へなく、また金融機關（主として信用組合）もたゞ彼の要求に從つて資金を供給することを以て足りたのである。從つてかゝる段階においては指導機關と金融機關との分立にも一應の理由が存してゐたとみられるけれども、今日においては生產力擴充のための新たなる具体的手段の發見は到底農民の裁量のみに委ねおかるべきではなく、從來單なる助言者に過ぎなかつた指導機關は今こそ眞に自ら陣頭に立つ指揮者の役割を擔はねばならず同時に金融機關の活動も亦この線に沿つて如何にして生產的融資を擴充すべきかといふ點に集中されねばならぬ

かゝる段階に至つては二つの機關の分立はもはや生產力擴充の桎梏と化すのであつて、こゝに農業團体組織の新しい体制と農業の擔ふ新しい役割との矛盾が解消されるのであり、所謂農業團体統合問題はまさしくかゝる矛盾を克服せんがために要請されてゐるものとみることが出來る。さりながら、この問題が中央において依然として低迷しつゝある間に、既に進歩的農村にあつては指導と金融との有機的結合を具体的運用の範圍において解決しやうと步を進めてゐることを指摘せねばならぬ。例へば京都府下某村における農事組合有役牛貸附制度のごときその一例である。即ち本村は肥料と勞力との缺陷を補はんがため役牛飼育を獎勵し、新たにそれを希望する農民に對しては農事組合利用部所有の役牛を貸附し利用料の名目のもとに實質的には比較的低利の利子を行はしめ、滿期の際その期間内に生産された犢をも含めて清算するならば結局その成牛が彼の所有となるが如く組織されてゐるのである。この際その貸附牛は組合が豫め所有するのではなく希望者の申出に應じ組合係員が家畜市場に同行し係員の助言のもとに當該農民の最も欲するものを購入しこゝによりよき飼育のために農民のイニシアティーヴを尊重しやうとする組合當事者の周到なる配慮をみねばならぬその代金は利用部が信用部より融通をうけこれを係員によつて賣主に支拂はれるといふ仕組である

更に注目すべきはこの係員が實は組合の有給囑託となつてゐる農會技術員であること、この者によつて上述のごとき家畜の購入のみならず爾後の飼育管理の指導も行はれ着々として成果を收めつゝあるといふ點である。

即ちこれ等一聯の手續をその機能の上よりみるならば明かに一面において農會の產業組合化であり、他面において產業組合の農會化であるといふことが出來るのであつて、こゝにわれ〳〵は生產力擴充の途が結局において指導と金融との有機的結合なしには實現し得ないことを知らねばならぬのである。

湯川博士・極微の世界
湯川粒子の思想的背景
木村毅一

湯川粒子を以て歐米先進學界を風靡した湯川博士の業績は、今次の大東亞戰爭の戰果と共に、大和民族の誇を高めた點に於て誠に偉い。科學に於て、その天分を自ら疑つてゐたこの民族が、今日確乎たる高い自信を自己の内に見出したことは嬉いであらう。戰爭のみならず何事にも必勝の信念が無くてはならない。今日まで我民族に欠けてゐたものは科學的天分ではなくて、この信念だつたのではなからうか。

我々は一つの大きい業績がなされた時、先づそれが如何にして生れたか、當事者はどんな人であらうかに興味が惹かれる。中間子理論の誕生の經緯と、湯川粒子の溫床たる博士の思想を皆知りたいと思ふのである。この時、博士は近著「極微の世界」を公にされたのである。これは昭和十四年に、ものされた「最近の物質觀」の姉妹篇とも見られるもので、それから後に色々の機會に發表されたものを骨子として、中間子理論への道程を示し（第一部）、併せてその思想的背景の一端を愼み深く、含み無い筆を託して述べられてゐる（第二部）。殊に、はしがきに於て先づ著書の美しい、力強い詩に心打たれる。

第一部「理論と實驗」に於て、物理學界の展望、理論物理學への道、素粒子問題の概觀、放射能と物質、宇宙線の本性、中間子（湯川粒子）理論の現狀等に就て說かれてゐる。一般向きに書かれてゐる。相當骨の折れる所もある。然し我々は、この「極微の世界」の[illegible]に列記されてゐる各素粒子の路標と性格とを知ると共に、これ等「極微の世界」の粒子相互間を律する法則が、とりもなほさず大宇宙を動かしてゐることを教へられるのである。中でも中間子は誕生後日尚は淺い子供であつて、産みの親や兄弟達が、その哺育に日夜肝膽を碎いてゐられる狀態は[illegible]れて頭が下る。ともあれ物理學が日に〳〵そう讀くなる「道」を求めて、難行に苦行を重ねてゐる姿を見るのである。

第二部「自然と人間」に於て、科學の國境、科學の近代化、科學と環境、エネルギーの概念、自然を知ること、響へ話、歐米紀行、故國に歸りて、科學の立場等、著者最近の思想を色々の立場で披瀝されてゐる。著者の哲學に對して讀者夫々の意見もあらうが中間子がこの中に生れ、それが今强く伸びんとしてゐることに嚴たる事實なのである、又それが湯川粒子の姿なのである。

この書の中に、そこばくの知識をはひ、知識人の滿足を以て足りとしてはならない、こゝに著者の烈々たる科學精神と愛國の至情に苦鬪し、更に科學用語を我民族の手にて成就し、以て眞の意味での我等の誇りと人類共通の榮光を招來せずんば止まぬ氣魄を培はねばならない。

又讀者に科學を育成する苦心を訴へ、共に闘ひ、共に進まんとされてゐる點、戰線よりの報道にも似てゐる、大東亞戰爭は直ちに國家各個の戰である如く、科學においても全く同じことが言はれるのである、この意味においても、一般に、科學に志す人人には勿論、そうで無い人々にも一讀をすゝめたいのである。（岩波書店・一圓八十錢）

天文 宇宙物理學彙報

理學部宇宙物理學教室では同教室の創設者であり、さる十三年八月南京紫金山下で支那文化復興事業に殉職した故新城新藏博士を記念する意味で「新城博士記念天文宇宙物理學彙報」を發行することゝなり、荒木教授の創刊の辭を卷頭に宮本正太郎、清水彊二兩氏の學術論文四篇をのせた第一號を出した編輯は荒木博士ほか四氏が委員としてこれに當る

東亞人文學報新刊

大東亞戰爭の世界史的意義（石川興二）社會發展史よりみたる支那社會の位置（東松俊明）民生主義の闡明（出口勇藏）等の諸論文をのせて第二卷第一號を出した

望蜀の感
「支那問題辭典」をよみて
穗積文雄

今度中央公論社から出た支那問題辭典について何か書けと新聞部の方からの命令であるが、何か書けとは批評せよとのことであらうが、いまは何と呼ぶか、從來の呼びなれた呼稱に從へば、四六倍大版の一千頁を越える大冊の辭を與へられた時間と紙數の中に議論することは思ひも及ばぬ。それでこゝに一讀して感じたところを記して以て責を塞ぐことゝする。

いはゆる大項目主義といふのであらう。

地文、資源、住民、華僑、北支那、中支那、南支那、蒙疆、西北支那、西南支那、外蒙古、西藏、外國の在支特權、外國の對支投資、外國貿易、滿洲國と支那、日支交渉史、日本と支那、アメリカ合衆國と支那、イギリスと支那、フランスと支那、ドイツと支那、ソヴエート聯邦と支那、列國と支那宗教、列國の對支宗教活動、支那革命史、民族運動、三民主義、中國々民黨、中國共產黨、國民政府、軍閥、法制、支那事變、抗日政權、列國の事變對策、財政、關稅制度、鹽稅制度、國債、農業、鑛業、工業、交通、幣制、金融、アジア的生產樣式、土地問題、資本主義の發達、協同組合、治水事業、衞生、家族制度、村落組織、宗教哲學、教育、文化機關、社會施設、文學思潮、文化運動、支那學の六十二項目が五十七人の學者によつて分擔執筆せられてゐる

分擔執筆といつても、一項目一人執筆で、たゞ「ソヴエート聯邦と支那」の一項目だけが二人によつて執筆せられてゐるが、しかしこの例外はかへつて分擔でなくて共同執筆の形になつてゐる。そして以上の項目が先にも述べた通り四六版倍大の大版に、三段組、七七六頁に盛られる。從つて、一項目は多いところでは「國民政府」のごとく廿三頁に亘るものもあり、少くないところでは、「度量衡」のごとく五頁にすぎぬものもあるが、普通は大体、十頁から十五頁ぐらゐのところで、それだけの分量では上述のごとき大項目を說くにはたして充分であるかといふことも問題とならうが、またみかたによつては、それくらゐるコンデンスしたものもあつてよく、いなそれこそ望まれるところで、少くなくとも、本辭典はそれをこそねらつたのだとすれば、それはかへつて譽るべき特徵の一に數へあげられてよいかも知れぬ。たゞ問題ははたしてよくコンデンスされてゐるか否かにかゝるのであるが、見渡したところ、執筆者はいづれもその方面の權威者で、それ〴〵その方面の著述もせられてゐる方々のことであるよりすれば、その點については[illegible]な知識がよくコンデンスせられて、要をつくしてゐるとみてよいかと思ふ。（こゝであるひはアト・ランドムにでも檢討するのがかへつて禮かとも思はれるが、省略に附する。）なほ各項目の下にそれ〴〵參考書ものせられてゐるから、さらに立ち入つた研究に進む便宜もあらうといふものである。その參考書も概して今少し多ければといふむきもあるかも知れぬ、また今日出版洪水の下では良書を選擇するのが一つの苦勞であるといはれることを思へば、かへつて少くないことこそ望ましいといへぬこともない。

ところで、かくのごとき大項目主義の辭典は普通の辭典のごとく引くためのものであるよりもむしろ讀むためのものであるといふべきであらう。そしてそれは項目の配列こそイロハ順になつてゐるが、例へば卷頭の項目類別一覽にみるごとく、これを（一）地理、（二）對外關係、（三）政治、（四）軍事、（五）財政、（六）經濟、（七）社會、文化とすればまさに一國、普通の著書の目次の觀を呈せるによりてもあきらかなるところであらう。そしてそこにこの辭典が、單なる辭典以上の意味を有つことを認めねばならぬと思ふ。

たゞしさういへばとて、十個にみるごとき項目があのまゝでよく文句をつける餘地がないのかあるのかは別の問題である。[illegible]かすことは二行組五十一頁に亘る詳細な索引があつて別に困らぬかとも思ふが、しかし小項目主義の下においては各々の項目が、それ自身において一應完結してをり、それを讀むだけでそれに對する一應の理解が得られることが約束せられてゐるが、大項目主義の下ではさうはいかぬのがむしろ普通であるといはねばならぬ。そしてそれはしばらく致し方ないところであらう

また、かくのごとき構造の下においては、これら小項目が、その說明を互に他の小項目に轉嫁して結局說明が見出されぬといふ辭典にとつて最もいむべき缺陷を生ずる恐れの少くないことを忘れてはなるまい。

なほ、附錄として人名字典と文化年表それに大地圖一葉が添へられてゐる。そしてそれらがいかに本辭典の利用價値を大ならしむるかは贅言を要せぬところであらう、いづれにしても、この辭典は支那研究者たると否とを問はず、現代讀書人の机上にその席を要求する權利を有つものといひ得るであらう。（中央公論社・十一圓）

新刊紹介

▼國家目的と文化の問題（竹内芳郎著）哲學者たる竹内氏が國家をはじめとし文化的諸問題について筆をとつたものゝ集積、自ら題して「憂憤の書」といふ（白馬書房・一圓八十錢）

▼忘れられた子等（田村一二著）著者の十年間にわたる低能兒教育の體驗を輕い筆致で物語つたもの、「忘れられた」低能兒の本當の姿が豐かなニューアンスの中に浮ぼりにされてゐる（教育圖書株式會社・一圓八十錢）

▼神と村（K・H・ワグゲル、若林矢夫譯）現代ドイツ國民文學の第二卷、土に親しむ農民の永遠な姿を描いたもの、卷末に解說を附す（白水社・二圓）

▲五輪書（宮本武藏著・高柳光壽校訂）細川本を底本とし、校訂者の解說を附す（岩波文庫・二十錢）

▼昆虫記（ファーブル・山田吉彥譯）第十五分冊、はなむぐり、まめざうむし、その他（岩波文庫・四十錢）

▼說きふせられて（チョイン・オーステン作・富田彬譯）英國屈指の作家オーステンの作品の一つ（岩波文庫・八十錢）

▼情熱の書（上）（ハプトマン作・秋山六郎兵衞譯）ハプトマンの云はば「詩と眞實」とも言ふべきもの（岩波文庫・六十錢）

▼罪なき罪（下）（フォンターネ作・加藤一郎譯）既刊（上）に次ぐ十六章以下を收む（岩波文庫・六十錢）

▼意志の勝利（佐々木能理男・若見恆夫共著）映畫「意志の勝利」の解說（青山書院・四十五錢）

▼夢の姿（宮城道雄著）宮城氏の四冊目の隨筆集、樣々な音色を呼び、いまの世の人の心にさわやかで、やはらかい慰藉を與へる（那珂書店・一圓七十錢）

▼電氣學實驗研究（一）（ファラデー著、矢島祐利、稻沼瑞穗譯）現代電氣工學の基礎をつくりあげたファラデーの著作の邦譯（岩波文庫・八十錢）

執筆者紹介

一めん　柴田　敬　本學經濟學部教授
　　　　黑田　正利　本學文學部講師
二めん　桑原　正信　本學農學部助教授
　　　　荒木　俊馬　本學理學部教授
　　　　木村　毅一　本學理學部助教授
　　　　穗積　文雄　本學經濟學部助教授
四めん　西田直二郎　本學文學部教授
　　　　小竹無二雄　阪大理學部教授
　　　　織田作之助　作家

編輯室より

薰風新綠の五月、大空の下、東山を背景に鯉幟が泳いでゐる、美しい古都京洛の五月を迎へて我々は新しい決意と抱負をもつて編輯の任に當つてから一年の歲月が過ぎた、思へば我々にとつても我々の祖國にとつても文字通り史上未曾有の一年間であつた、我々の在學年限は短縮され、臨時徵兵檢査も斷行された、讀書に思索に、或ひは此の嚴しく移り行く世の情勢に照して廣く學の内外を眺め少しでも優秀な新聞を作るべく我々は出來るだけの努力をして來た、新聞に特色を盛るために本學諸先生方に無理な執筆をお願ひしたりして色々紙面を賑つたりした、諸君諸兄の要望に應へんとして色々の企畫もやつてみた、これからも我々は眞に時局を認識した學徒としての正しい道を誤ることのなきやう新しい企畫に編輯の充實に存分の努力をなし、諸兄の御期待に酬いたいと思ふ、おほらかに澄んだ五月の空若さの象徴とも見える鯉幟、そのやうに溌剌と力强く雄々しく我我の新聞はあらねばならぬ

中村明　病床受洗　B6判三三〇頁　價一・四〇（〒一五）
波多野精一博士序文の一節　―一哲學徒の入信記―
……ドイツ留學の當時不幸にし……ねばならなかつた君は……キリストの啓示に接し、病床に洗禮を受ける」に至つた……は心から喜んだ。同時に私の關心は……天が與へた思想的解答と……著によつてこの關心が滿足を見るに至つたことを私はよろこぶ……（五月中旬發賣）

石原兵永　回心記　B6判三三〇頁　價一・四〇（〒一五）
ジョン・バンヤンの「罪人の首に溢るる恩寵」は一個の平信徒の回心の記錄として、古今を通じて聞えて居る、これは若くして内村鑑三先生門下に置かれた著者の、嚴しい回心の記錄である、若し道を求めて救の經驗の難さに惱む人あらば、來つて此の一書を一讀せよ、よき示唆に滿つる書なるを見出すであらう

シュウァイツァー著　小栗孝則譯　ゲーテ　附・ゲーテの言葉　B6判二七〇頁　價一・八〇（〒一〇）
ゲーテ百年忌に於けるフランクフルトに於ける記念講演中の白眉として全ドイツ人を打つたものである。著者が第二回ゲーテ賞の受賞者であることと、神學者、バッハの研究家、而してアフリカの赤道直下ランバレネに於ける人道戰士たるは知る人ぞ知る。（發賣中）

宮本武之助著　宗教哲學　B6判三七〇頁　價二・二〇（〒一〇）
著者の神學に立つての哲學的思索の結實である、此の書發賣と同時に賣切れ、目下再刷準備中、大方の期待に添ふ日近かるべきを告げる。

松尾喜代司譯　ルター　ローマ書講解　A5判六七〇頁　價六・五〇（〒三〇）
宗教改革者ルターの此の講解は、刊行半年にして壹千部を發賣して、此處に再刷を發賣し得るに至つた、初刷所持者にも小補なる訂正表を呈上すべし、乞御請求。

謹告　小店の刊行物につき……
長崎書店　東京市神田區三崎町一丁目　振替口座東京七一八八六番

文明社古典選書
文學博士　佐佐木信綱編　日本歌學大系　全十卷
冷泉爲臣編　藤原定家全歌集
文學博士　幸田露伴序　小林榮子著　上代秀歌鑑賞
佐々木信綱・川田順・伊藤嘉夫・久曾神昇共編　西行全集
久曾神昇編　古今和歌集

最新刊　山上八郎著　戰爭と日本民族
野村八良著　國體論

理數化學　演習叢書
改訂　微分學演習
改訂　積分學演習
改訂　代數學演習
解析幾何學演習
改訂　物理學演習
改訂　力學演習
無機化學演習
有機化學演習
立體解析幾何學　價五・〇〇
文明堂　東京市小石川水道端二丁目　振替東京一七一六番

文學博士　鹿子木員信著　日本精神の哲學　B6判一八九頁　定價一・〇〇　〒・一〇
ナチス獨逸政府の招聘により、ベルリン大學に於て日本精神につき講義をなす豫定なるも、交通路杜絶のため待機せらるる著者が日本歷史に關し、獨自の歷史哲學を展開し、それに基き國史上の諸事象の中に、日本的性格を究めんとされたところの理と熱との書である。（高等學校、大學、專門學校生向）
最新刊
正宗敦夫編　蕃山全集　第五回配本（第五冊）全六冊（出版文化協會用紙特配）¥4.50 〒.18
東京電氣株式會社取締役　森松藏著　新商人道　安岡正篤氏序文　藤山愛一郎氏序文（出版文化協會用紙特配）¥2.00 〒.14
玉林晴朗著　文身百姿　七色圖表紙・函入　挿入寫眞三十數葉　全四百餘頁　B6判　定價三圓　¥3.0 〒.14
東京市神田區神保町一ノ三　振替東京四六七〇九　文川堂書房

日本評論社新刊
東京商大東亞經濟研究所　山田勇著　東亞農業生產指數の研究　―内地・朝鮮・臺灣の部―　東京商大東亞經濟研究所研究叢書第一冊　A5判上製四四〇頁　價四・五〇　送・三〇
本書は東京商科大學東亞經濟研究所に於ける研究課題の一たる大東亞共榮圈内諸國農業生產指數作成の第一成果であつて、日本農業の發展過程を新しい函數論的生產指數を以て綜合的に把握し、大東亞經濟建設の基礎資料を提供せんとするものである。
ミュルダール著　山田雄三譯　經濟學說と政治的要素　A5判上製四七四頁　價四・五〇　送・三〇
北歐學派の碩學の筆に成る本書は、經濟學說の中における政治的思辨を問題史的に分析精査し、科學的認識と政治的信念の混濁を鋭く衝くことを通じて新たな政策學への途を切り拓く意欲的な試みである。純乎たる譯文また本書の內容とよく一體をなす。
ザワズキー著　寺尾琢磨譯　經濟學に應用された數學　A5判上製三一六頁　價三・八〇　送・二〇
本書は、經濟學における數學應用の可能性と限界、數理學派發展の略史、純粹經濟學の基本的諸問題を簡明に紹介せるものであつて、今日躍進の日程に上つた數理經濟學理解への最良の手引書であり、且つ斯學の優れた古典として不朽の名著といへよう。
五高教授　竹內照夫著　春秋　B6判上製二七六頁　價一・六〇　送・二〇
儒教五經典の一つに數へられる春秋は、記述簡潔に過ぎて一般人には近寄り難い。新銳竹內氏は、左氏・公羊・穀梁の三傳を中心に、春秋の思想的本質と後代への影響を美しく纏められた。讀者は本書に接して必ず驚異されるであらう。
土岐善麿著　田安宗武　A5判上製八〇〇頁　價七・五〇　送・三〇
田安宗武とは何人か。德川八代將軍吉宗の次子と生れ、萬葉精神の傳統を德川時代歌壇に復活せしめた大才である。碩學久しき土岐氏は、茲に二十年の研究成果を重厚なる大著として世に問ふ。歌壇及び國文學界に對する貢獻は甚大であらう。

生活社
日本出版文化協會推薦　佐藤武夫著　滿洲農業再編成の研究　A5判三二二頁　三圓六〇　〒三〇
滿洲農業の生產力を增强するために、滿洲農業を如何に再編成すべきであるかを、小作關係・經營機構・及び機械化の三つの重點から究明せるものにして、著者の三年に亘る調査研究の成果を示すものであり、問題を常に具體的に提起し、實證的にこれを解明せるを特色とす。滿洲農業に關する最近の大いなる收穫たるを失はぬ。
松野傳著　開拓農業とプラウ問題　A5判二三〇頁　二圓〇〇　〒十五
滿洲開拓農業に對する北海道農法導入の問題は、もはや議論の時ではなく、その强力な實行の時であると信じる。現に要請されつゝある滿洲農業生產力の增强も、在來農法の踏襲による限り不可能である。本書は著者が前著「滿洲開拓と北海道農業」に引續き、特にプラウ農法を主として展開せる最近の業績である。
東京神田須田町二　振替東京四三〇二一

天長節の佳節を祝ふ

鍛錬と教養に團欒

新入生入歓迎会大會学同

和やかな集ひ

教授も童心に返って

懇親運動会

高校大會開催決定

今夏は東京で

奈良朝の昔に

日本美の跡を訪し

夕の樂音と畵譜

映畵講座

〝成績は上乗です〟

共濟部の内職紹介

文化部行事

月曜講義始まる

新しき建設への確信

我々の建設 (一)

対東亜戦

いざ空襲に備へて

鐵柿の構へなる

足を鍛へよ！

旅行部で五コース選定

印税を基金へ

本紙で第一次出版

四明會總會

同好會の見學

五月中の行事

學内競漕大會

愈よ來る十日開催

本學大勝

剣道部快勝

ラグビー連勝

水泳部合同性

「體操の圖解」

同學會で頒布

學藝だより

撮影所見學

獨逸文化講座

「映畵藝術史」講座 盛況

茶紅東日

ドイツ語

獨逸語學講話

獨作文教程

日光書院

河出書房新刊

續哲學ノート

物理學ノート

思想の展開

日本古代文化研究

大東亜戦争私感

語ツイド

日蘭交渉史の一齣
—マイランと日本爪哇交通—

西田直二郎

大東亞戰爭の進展につれて皇軍の赫々たる戰果は日一日とその實を擧げ我々國民の感激措く能はざるところである。我が國の歷史はかゝるかゞやかしき事態の中に展ぜられてゐるのであつて、かゝる意味から國家の建設するラウムといふものがその國の歷史と深い關係に立ち、歷史を方向づけてゆくものではないかと思ふ。

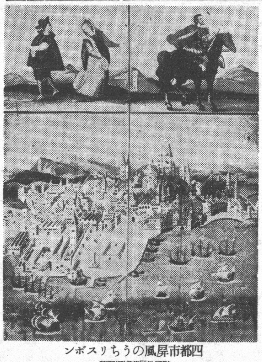
現在我が國と南方とは政治上、經濟上非常に密接な關係に立つてゐるが、かうした事態は大東亞戰爭の勃發により初つたことではなく古くから我國と南方諸國とは密接の關係を有し、南方が我が國の歷史に影響をもつてゐることは多大なのである、日本の運命にとつていま大きな舞臺が開かれたわけだが、日本と南方との古くからの交…

…ヤワの更紗が非常に珍重されたことがわかる、日本からオランダへの注文書にも主にこの織物が注文されてゐる

これはマイランがジヤワの名産たる織物を日本に持つて來て紹介した、それが日本人の好みにあつたからであり、かうして日本へ輸出させることによつて、ジヤワの織物もます〳〵多量に産出されるやうになりこゝにもマイランの業績がうかゞはれる、特に注目すべきことゝおもはれるのは日本からジヤワへの茶の進出である、シーボルトは日本の茶の木をジヤワへ持つてゆき、そこに繁茂せしめたのは自分自身だといつてゐるがジヤワで初めて茶の木が植られたボイテンゾルク植物園が開かれたのが、丁度マイランが日本へ渡航したころであることなど考へあ…

マイランの日本渡航は單に貿易上においてのみならず文化的にも我が國に深い關係をもつてゐるのである、シーボルトは早くよりマイランの奇才を認めその著書の中にも「オランダはマイランの日本渡航により日本の國民の性格についても知る事が出來るであらう」といつてマイランを紹讃してゐるが、日本文化の海外への紹介についてのマイランの功績はマイランの著「日本の貿易に關する歷史的大觀」や「ヤーパン」の中に認められるのである。なほマイラン著「ヤーパン」は一千八百三十年すなはち天保元年アムステルダムで出版されたものであるが日本の性格や日本の文化について深い反省と發展との契機をなすものではないかと思はれる

マイランは日本の鎖國政策についての見解もオランダ政府へ報…



四都市屛風のうちリスボン
—神戸池長美術館所藏—

歷史と小說

織田作之助

…如何に歷史が面白いからと…まけるやうでは、もう小…ない。文藝四月號の丹羽…讓氏との對談をよむと…まけてゐる小說家の姿が…出てゐて、些か情けない…「勤皇屆出」等も、史實に興味索然たるものがある…お前はどうかといはれる…るのだ「五代友厚」では…まけた覺えはないが、併…人の日く、あれは初めか…と四つに組んでゐない、…

說がみな森鷗外みたいなものになつても、困るだらうと思つた。吉川英治氏の太閤記はいくらか經文學の手法があつて微笑されたが、それを除くと、やはり面白い。だが、幸田露伴氏の「史傳小說集、第一卷」をよむと、さすがに幸田氏だと思つた。

「歷史と小說」などと勝手な題をつけて、こんなことしか書けず、時間の餘裕のないせゐもあるけれども、とにかく情けないが、歷史小說に就ては、實は書…

澤瀉久孝博士著「萬葉古徑」に就いて

五味保義

本書は澤瀉久孝博士が萬葉集の作品の訓詁について、從來問題の多くのこされてゐるものを取上げ之に新しく一說を樹てられたものである。項目は十五、昭和七年から同十五年末に及ぶ勞作である。

本書は訓詁の書ではあるが、決して凝り固まつたものではない、常に順直清明な心持の流動した訓詁である。それが作品の理解といふ所に目標があつて、單なる考證興味を滿足させようとしたものでないこと、それが著者の性格さながらな平明流麗な筆致によつてすゝめられるので、讀者は著者の氣持の流れに沿ふだけの少しの努力をすれば、後はおのづからその雰圍氣に浸つて、萬葉集解明の古徑をあゆむことゝなるのである。たとへば十五項にわたる各考證訓詁は必ずしも華々しいものではないが、第一の「人二人ありとし思はば」で、古代人の「戀」が說明されると、第二の「歎きつゝ君が歩くに」でも、第三の「その夢にただに見え繼ぐや」でも、この解明か…

…を提示し、その解明に入りゆく經路に於て、煩瑣感をもたず、それ…

…生かされて來る。第四の「み山もさやにさやげども」で人麿の小竹山をこそつゝゆく吟詠の研究があると、次に「いさゝ群竹」が收められ、つづいて「さやに」と緣のある「清明」「王驚」のごとく「まさやかに」の訓法が提出されるといつた工合で、各編の關係が有機的に進行してゐる。これは單なる工夫でなくて、著者の訓詁に對する研究の根抵が著者自身の身体から發したものであることを示すものである。

著者の訓詁はその精緻をもつて稱せられる、なるほど實に水ももらさぬ精密さである。けれども在來の說をあげ、之を整理し、問題…

山吹の花

荻原井泉水

伊豆はいづこも湯のいづる子供連れて山吹

溫山には夕日の、こゝら山吹のもう日かげり

戰歿者のこれは明治の、やまぶきの花

一雨、さうして櫻散らす風が出て山吹

山吹、むかし餅屋のバスの旗出してゐる

けふは富士の見えない茶店が一軒山吹

山吹、流れてゐると釣つてはゐる

田舍びた御神燈と生垣の山吹もみりやうち

山吹の花、女の子日暮のくらさ讀んでゐる

子供が來てうちの子も與山山吹それを折る

—伊豆若奈にて—

麥酒の泡

小竹無二雄

練馬

第十一回獨立美術展　海老原喜之助

公法雜誌

佐々木惣一博士主宰

自然法と法律主義(第五講)……佐々木惣一
公法研究所(振替大阪三五二九一)

本號 定價一部六十錢

貝書普及會

御婚禮

神前結婚式場

多人數様の御總會

海川魚御料理

御中食　御夕食

充分におひしく召上つて頂くことが出來ます

御家族様御同件歡迎

ハイキング御集會等に重寶な 折詰

◇御持込酒歡迎

◇御注文次第御伺ひ致します

鮒鶴

本店　木屋町松原上ル
支店　四條河原町南
電代表下八七六一
支店用下七六九三

大和家庭料理講習會
新會員募集
會場　鮒鶴支店
入會御希望の方會則送呈

小山齒科醫院

東京齒科醫學士　小山正光

市電百萬遍電停西(電車通北側)
電話上五八二五番

白系新京極第二次封切權を獲得して躍進!!

御挨拶

引續き永らく東寶映畫上映館として御引立てを蒙つてをりましたキネマ倶樂部は御承知の通り映畫配給元化に伴ふ新体制に即應し愈々五月七日より白系新京極第二次封切場として新發足することゝなりました

最高基準演出と低物價時代に順應する奉仕料金卅六錢均一(税共)

以上の映畫報國の祈念に燃え皆様の一層の御期待に添ひたいと存じますが本月の番組も御希望を以つて編成致しました、次の通り各社一流の大作を以つて編成致しました、よろしく御高覽願ひ上げます

★五月七日より★
文部省推薦・情報局賞獲得
"父ありき"
松竹大船映畫・小津安二郎演出
佐野周二・佐分利信・水戶光子
笠智衆・坂本武・津田晴彥

★十四日より★
日活映畫・山本弘之演出
"第五列の恐怖"
夏川大二郎・中田弘二・伊藤一郎
國分みさを・見明凡太郎

★廿一日より★
東寶映畫・マキノ正博演出
"待つて居た男"
長谷川一夫・高峰秀子
山田五十鈴・榎本健一
東寶總動員

五月七日より新館名で進發するキネマ倶樂部!!

眼科石田醫院

河原町今出川南側電停前
電話上(3)7776番
診療時間(每日午前及夜間)(日曜祭日午前中)

軸・額・屛風・襖
其他表具類全般
表具師 渡邊昇雲堂
京都市吉田中阿達町一〇
電上五六六三・振京八〇七七

藥新・調劑・醫科用品

東山藥局

熊野神社停留所前
電話上3140番

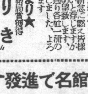
逸見式計算尺
製圖材料一般
醫科實習用品
文具・事務用品

★

出崎文具店

東一條電停前・電上3923

TYPEWRITERS
修理・賣買



關西事務機器商會
西洞院六條上ル

文房具・事務用品
長谷日進堂
東山線熊野電停北
電話上二二九五番

支那書籍專門
京都市中京區寺町通丸太町南入
彙文堂書莊
電話上(3)七六七番

初夏のさはやかな風は囁く
スケートへ!スケートへ!
朗らかに愉しく滑らん哉
青春のスポーツスケート!

水曜日は學生サービス

河原町三條下ル東入
スケート場アイス

サン・テクジュペリのシナリオ
七日より十五日まで
夜の空を行く
アナ・ベラ　ピエール・R・ウイルム共演
「夜間飛行」「郵便飛行」等秀れた航空小說を發表一躍文壇の寵兒となつたテクジユペリの殘された唯一の原作映畫

★靑春
★早春
次週公開

階上映畫館 映
電話本局二三五二番

我が國文化映畫は今や苦鬪の時代を超えた、輝やかしい勝利的作品の數々!

七日より
海軍兵學校の記錄
勝利の基礎
理研科學映畫 七巻

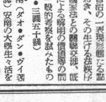
十四日より
村の學校
横濱シネマ製作 六巻

廿一日より
土に生きる 六巻

京映畫劇場 洛
河原町六角西
電話本局五七六三番

明日のみ
最後の一兵まで
六日一日のみ上映!

七日大公開



綠の大地
東寶

出演
島津保次郎
入江たか子
原節子
江川宇禮雄
丸山定夫
東寶超特作映畫

大御所島津が物した大陸に描く開拓と建設の青春の美しき愛の青春譜 然も豪華スタッフで!

三〇セン 開放 税別

文映

¥69.50よりの
夏の紳士服御誂
毛五割の薄ラシヤ、絹ポーラ等
十七日マデ　二階洋服賣場

(大)

服裝研究會作品
夏の染織品
一流の染織家よりなる會員が時代の氣魄をもれる氣品高きお召物……
西陣御召、ポーラ着尺、絹上布、大島、縮着尺、京染小紋着尺、訪問服、白生地、帶地等
服裝研究會考案になる新作品……

◇夏の婦人子供服

各產地 單衣銘仙
伊勢崎、秩父、足利、八王子、村山等各產地の新柄
以上 十日マデ 六階

一七円八〇の別染交織綸子着尺
純絹富士絹
純綿レースの袖口にペティコート
十日マデ 四階

大丸
京都四條